令和元年9月10日

資料 3

アズレー・ユネスコ事務局長の訪日（2019年8月28～30日）

1．訪日の意義・目的

●アフリカ開発会議（TICAD7）に合わせたもの。事務局長としては初の訪日。
●双方が重視するアジェンダ（教育，文化，AI，防災，対アフリカ協力等）に関する協力の確認。
●ユネスコ常駐アフリカ主要国大使も招聘し，日ユネスコ協力をアピール
（ガボン，アンゴラ，ベナン，ブルキナファソ，エジプト，マリ，モザンビーク，トーゴ，ウガンダ）。

2．安倍総理表敬，河野前外務大臣との会談，柴山前文科大臣との会談

（1）ユネスコの非政治化に向けた改革

●日本側から，非政治化に向けた改革の着実な進展を評価しつつ，「世界の記憶」の制度改善を含むユネスコの非政治化が重要であり積極的に協力したいとの立場を表明。
●アズレー事務局長から，ユネスコの非政治化に向けて「世界の記憶」の制度改善や戦略的変革に積極的に取り組んでいる旨説明。

（2）双方が重視するアジェンダに関する協力

●日本側から，対アフリカも念頭に，教育，文化，AI，防災，環境と教育の取組を支援したい旨発言。
●アズレー事務局長から，対アフリカ協力や，教育，AI，環境，防災等の分野で日本との協力を一層強化したい旨表明。

●文科大臣との間でも，「世界の記憶」の改革の重要性に関する共通の認識が確認されるとともに，教育，科学分野において，日本の強みを生かした協力を進めていくことなどが議論された。

アズレー・ユネスコ事務局長の訪日（2019年8月28～30日）

3．サイド・イベント

（1）AIの活用に関するパネル・ディスカッション

●2018年アズレー事務局長は，「AIの倫理」策定に向けたイニシアティブを表明。本年11月のユネスコ総会で加盟国に諮った上で同プロセスを推進したい考え。
●外務省とユネスコの共催で，アフリカ，ユネスコ，日本のAI専門家計7名がAI適用に向けたアフリカの課題や対応策を議論。山田・外務大臣政務官，マトコ・ユネスコ事務局長補より基調挨拶。
●各国政府・国際機関，有識者，ビジネス関係者などが出席し，会場（100名）は満席となった。
●アフリカの登壇者から，対外的な技術依存を克服するためのデータ・プールの確立や，女性や若年層に向けた官民一体のキャパビル支援の必要性が指摘され，ユネスコ出席者より，人間中心の倫理に根ざしたキャパビル支援や教育支援へのAI統合の必要性を発信。日本の登壇者から，防災へのAI適用状況，民間企業のスマートシティやアフリカの課題への取組の可能性を説明。

（2）アフリカの映画人材育成に向けたシンポジウム

(c)千葉太一

●外務省，国際交流基金，ユネスコの共催により，アフリカ映画『The Mercy of the Jungle』の上映及びアフリカ映画をめぐる状況をよく知る日，欧，アフリカの映画製作者や映画祭代表らを招いたシンポジウムを実施。
●アズレー・ユネスコ事務局長が，人材育成，アーティストのモビリティ，市場へのアクセスという点で，アフリカ映画のポテンシャルを探る場にしたい旨挨拶。
●萩生田衆議院議員が，アフリカ映画，人材育成等現状を知るきっかけ，日本の連携のあり方を考えるきっかけとなることを期待する旨挨拶。
●『The Mercy of the Jungle』上映後のシンポジウムで，登壇者から以下活発な議論がなされた。
・日本映画がアフリカで，アフリカ映画が日本で継続して上映されるとともに，将来を見据えながら違った国同士協力のあり方を議論することが重要。
・現在，アフリカ映画への需要は革命のような時代にあり，アフリカ映画の越境をどう受け止めていくか，いかに拡大し良い形で過去の遺産を将来につなげていくのかが求められている。
・アフリカの映画祭に日本の映画監督等を招き議論する場を作ったり，アフリカの映画人の卵を日本に招き日本で作品を撮ったりするなど，映画を通じた日本とアフリカの相互理解を深めていくべき。
●安藤国際交流基金理事長より，本日の議論を具体的なものとして形にしていきたい旨挨拶。